

三つの死、その原因と神による解決

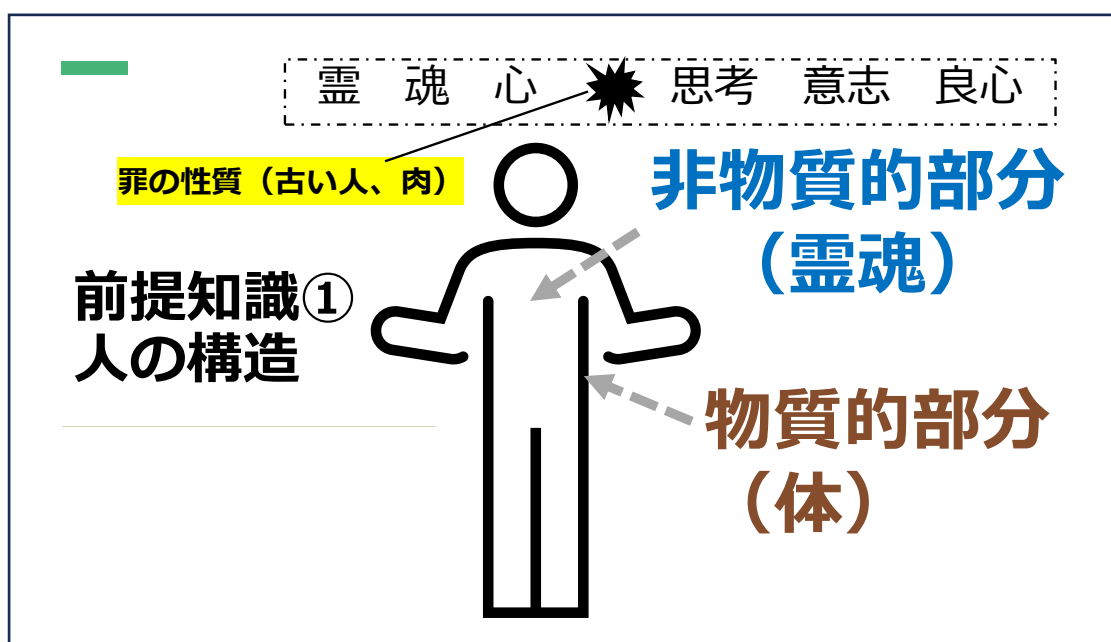
□第一部「三つの死とその原因」のアウトライン

1. はじめに（前提知識）：人の構造、死の意味、三つの死
2. 最初の人アダムの子の罪の結果：二つの死、「霊的な死」と「肉体的死」
3. 子孫への継承：罪の性質が遺伝により継承され、アダムの子が転嫁により継承される。
すべての人は生まれながら霊的に死んだ状態、そして必ず肉体的死を迎える。
4. 三つ目の死「永遠の死」：個人的な罪をさばかれ、火の池へ行く刑罰を受ける
5. まとめ：三つの死とその原因

1. はじめに（前提知識）

(1) 人の構造・・・

- ① 物質的部分【体】と非物質的部分との二つから成る。
- ② 非物質的部分には、【霊・魂・心・思考・意志・良心】と呼ばれる 6 つの要素が一体となっている。この学びでは、非物質的部分を「靈魂」と呼ぶこととする。
- ③ 靈魂には、罪の性質が入り込んでいて、6 つの要素を縛りつけ、支配している。罪の性質は【人の主人】、人は【罪の奴隷】である。聖書は罪の性質を、「罪」と呼ぶほかに、「古い人」、「肉」とも呼ぶ。



(2) 死とは何か・・・消滅ではない。分離である。たとえば、肉体の死は、【体】から【靈魂】が分離すること。肉体は土に帰り、靈魂は死後の世界に行く。靈魂は不滅であり、その人の意識は肉体の死後も継続する。

(3) 聖書の教える三つの死

- ① 靈的な死＝神からの分離
- ② 肉体の死＝体から靈魂が分離する
- ③ 永遠の死＝永遠に神から分離される、隔離される場所が「火の池」

2. 最初の人アダムの子の結果：二つの死、「靈的な死」と「肉体の死」

(1) 最初の人アダムに対する神の命令

創世記 2：15～17 神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善惡の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

- 唯一の禁止命令・・・善惡の知識の木からは、食べてはならない
- 違反に対する罰・・・あなたは必ず死ぬ

(2) 蛇を使ってサタンが人を誘惑した（3つの誘惑、神から禁じられたことをしたい、被造物としての立場を越えて神のようになりたい、神が啓示していないことを知りたい）、そして違反の実行

創世記 3：1～6 さて蛇は、神である主が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」

女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。」

すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善惡を知る者となることを、神は知っているのです。」

そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

- 食べるのに良さそうで・・・食べてはならないと神から命じられていたのに、それは食べるのに良さそうに見えた ⇒ 神から禁じられたことをしたいという誘惑
- 目に慕わしく・・・これを食べたら目が開かれて、神のようになって善悪を知る者となれそうに見えた ⇒ 被造物としての立場を越えて神のようになりたいという誘惑
- またその木は賢くしてくれそうで好ましかった・・・神が啓示していないことを知りたいという誘惑 ⇒ オカルト、悪霊との交信の出発点

(3) アダムの罪の結果、すぐに起きたこと

創世記 3 : 7～13 こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。

そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」

彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」

主は言われた。「あなたが裸であることを、だれがあなたに告げたのか。あなたは、食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか。」

人は言った。「私のそばにいたようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

神である主は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」

女は言った。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました。」

- ① 裸であることを知った・・・裸では「恥ずかしい」(創 2 : 25) という思いが生じた。恥じらいは性欲の現れであり、無垢な状態が失われ、人の中に「罪の性質」が入ったことを示す。
- ② 腰の覆いを作った・・・腰とは男女の性器を指す。人のいのちを親から子へと継承していくための重要な器官であるが、それが性欲と恥じらいの部位となり、アダムとエバはとっさに、近くにあったいちじくの葉をとり、それをつづり合わせて腰を覆った。このことは、アダムとエバに入った罪の性質が遺伝的に子孫に継承されていくことを暗示する。人のいのちの継承に関わる器官が罪の性質を継承する経路となる。

- ③ 主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した・・・アダムとエバは、神を避けて、神から身を隠した。人が本来造られたときの神の似姿としての靈魂は損なわれ、内側に罪の性質が入ったので、きよく正しい神との交わりができなくなった。神から分離した状態、これが「霊的な死」である。**その原因は、人の内側に入った「罪の性質」である。**なお、聖書は罪の性質を、「罪」（ロマ 7：20）、「肉」（ロマ 8：7）、「古い人」（ロマ 6：6、エペソ 4：22）と呼ぶ。
- ④ 自分が裸であるのを恐れて・・・裸であることを知ったのは神の命令を破って善悪の知識の木の実を食べた結果である。「恐れて」とは、神の命令を破ったことについての罪責感である。
- ⑤ あなたが与えてくださったこの女が・・・罪の性質は、人を責任転嫁に向かわせる。自分は悪くない、他の誰かのせいだ、という態度。ここでアダムが言ったことは、次のような思いから出ている。「確かに私は神の命令を破った。罪を犯した。しかし、それを最初にして、そして私にもそうするようにさせたのは、この女だ。そして、この女は、神が私に与えてくれたのだ。だから、元はと言えば、神のせいだ。私に責任はない。」

(4) アダムの罪の結果、続いて起きたこと

創世記 3：17～19 また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

- ① 大地は、あなたのゆえにのろわれる・・・アダムの罪のゆえに大地は呪われ、人は一生の間苦しんで大地から食を得る。被造世界の呪いは、本来は草食だった動物界にも及び、肉食に転じる動物も。
- ② 人の肉体にも呪いが。障害、病気、老化、そして最後には「肉体の死」。

- ③ 土のちりに帰る・・・肉体の死を意味する。死とは分離であり、その人の肉体から、その人の霊魂が分離する。いのちの実体は、肉体ではなく、霊魂にある。霊魂が離れると、肉体は活動を停止し、土のちりに帰らねばならない。他方、霊魂は不滅であり、その人の霊魂は意識を継続したまま、死後の世界に移る。

3. 子孫への継承

すべての人は生まれながら霊的に死んだ状態、そして必ず肉体の死を迎える

(1) 「罪の性質」は親から子へ

創世記 8:21 主は、その芳ばしい香りをかがれた。そして、心の中で主はこう言われた。「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらしはしない。人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。

詩篇 51:5 ご覧ください。私は咎ある者として生まれ 罪ある者として 母は私を身ごもりました。

エペソ 2:1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、

(2) すべての人に、アダムの子孫の罪がかぶせられた

「アダムの子孫の罪」は、すべての子孫が最初の人アダムの腰の中にあって、アダムといっしょにその罪を犯したと見なされる。すべての人が、実際にはアダムと同じ罪を犯したわけではないが、肉体の死を免れない。その理由は、すべての人にアダムの子孫の罪がかぶせられて、アダムと同じ罪を犯したと見なされているからである。これを、神学上は「転嫁された罪」と呼ぶ。

ロマ 5:12 こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に――

I コリ 15:22 アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。

4. 三つ目の死「永遠の死」

(1) 大きな白い御座のさばき

黙 20 : 11 また私は、大きな白い御座と、そこに着いておられる方を見た。地と天はその御前から逃げ去り、跡形もなくなった。

- いつ、このさばきがあるのか？ 聖書の預言をまとめると・・・
 - 中東和平が成立し、イスラエルは安心して暮らせるようになる
 - 突如ロシアとイランがイスラエルに攻め込むが、自然災害によりロシア軍もロシア本国も甚大な被害を受ける
 - 世界統一政府が樹立される。その後、10の地域に分割統治
 - 大患難期7年間。キリストの地上再臨で終わる
 - キリストの王国（千年間）
 - 大きな白い御座のさばき

キリストの再臨は2つの段階
空中再臨と地上再臨
空中再臨は大患難期の前

(2) さばかれるのは、神を認めず、神の救いを受けずに死んだ人たち

黙 20 : 12a また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。

身分の高い者も低い者も

(3) 問われるのは、各自の生前の行い、「**個人的な罪**」

黙 20 : 12b 数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。

(4) 刑罰は、火の池に投げ込まれて永遠に神から分離された状態に置かれること。これが「**永遠の死**」、聖書では「**第二の死**」と呼ばれる。

黙 20 : 14～15 それから、死とよみは火の池に投げ込まれた。これが、すなわち火の池が、第二の死である。いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。

5. まとめ：三つの死とその原因

罪の性質は【人の主人】、人は【罪の奴隷】

	三つの死	その原因
①	霊的な死	罪の性質
②	肉体の死	アダムの罪（転嫁された罪）
③	永遠の死	個人的な罪

□第二部「神による解決」のアウトライン

1. 霊的な死⇒「**霊の再生（新生）**」・・・3つの方法による。第一、信者を罪の性質による支配から解放する。十字架の上で「罪の性質」をさばき、支配権をはく奪する。第二、信者に新しい性質を与える。これにより、罪の性質に従うか、新しい性質に従うかを選択できるようにする。第三、聖霊が信者の内側に住んでくださり、神の命令を守り行う力を与えてくださる。
 2. 肉体の死⇒「**体の復活**」・・・すべての人の罪を十字架上のキリストに転嫁し、キリストの義を信者に転嫁する。将来、定められた時に信者はキリストと同じように復活する。
 3. 永遠の死⇒「**赦しと義認**」・・・人がキリストの身代わりの死を信じるなら、神はその信者のすべての罪を赦してくださる。さらに、神はその信者を義人と認めてくださる。よって、信者は、神のさばきを受けることは決してない。
 4. まとめ：神による解決を受け取る方法は、キリストを信じる信仰のみ
-

1. 「霊的な死」に対する解決は、**霊の再生（新生）**

ヨハネ 3：3 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、**新しく生まれ**なければ、神の国を見ることはできません。」

霊的な死からの再生は、3つの方法による。

第一： 信者を罪の性質による支配から解放する。十字架の上で「罪の性質」をさばき、支配権をはく奪する。

第二： 信者に「新しい性質」を与える。これにより、信者は、罪の性質に従うか、新しい性質に従うかを選択できるようになる。

第三： 聖霊が信者の内側に住んでくださり、神の命令を守り行う力を与えてくださる。

(1) 罪の性質による支配からの解放

ロマ 6：6 私たちは知っています。私たちの**古い人がキリストとともに十字架につけられた**のは、**罪のからだが減ばされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなる**ためです。

- 古い人・・・信者にとって、信者になる前の古い自分という意味ではない。古い人とはアダムを意味するが、アダムの罪のために人に入った「罪の性質」を指す。
- 古い人がキリストとともに十字架につけられた・・・罪の性質は、キリストとともに十字架につけられ、さばきを受けた。信者にとって罪の性質

は、自分の中にあって自分を支配する主人であったが、その主人がキリストとともに十字架に張り付けられて、もはや自分の主人ではなくなったのである。そのことを信じるなら、どうなるか。それが次に語られる。

- 罪のからだが減ばされて・・・罪の性質の思い通りに操られていた体が、そうでなくなる
- 私たちがもはや罪の奴隷でなくなる・・・信者はもはや「罪の奴隷」、すなわち、罪の性質に支配された奴隷 でなくなる。

(2) 信者に「新しい性質」を与える

ヨハネ 3:6 肉によって生まれた者は肉です。**御霊によって生まれた者は霊**です。

- 霊・・・人が信じたときに、御霊（聖霊）によって、その人の内側に新しい霊が造られる。これが、新しい性質である。「御霊によって生まれた」とあるように、神によって造られた新しい霊である。
- 元々、人の非物質的部分である【霊・魂・心・思考・意志・良心】の中の「霊」とは、別である。これらの 6 つの要素は罪の性質によって、かなりのダメージを受けている。信仰生活の歩みの過程では、失敗して罪を犯したり、汚されたりすることがあり得る。これに対して、新しい霊（新しい性質）は、罪を犯すことができず、きよい。

I ヨハネ 3:9 **神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種**がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、**罪を犯すことができない**のです。

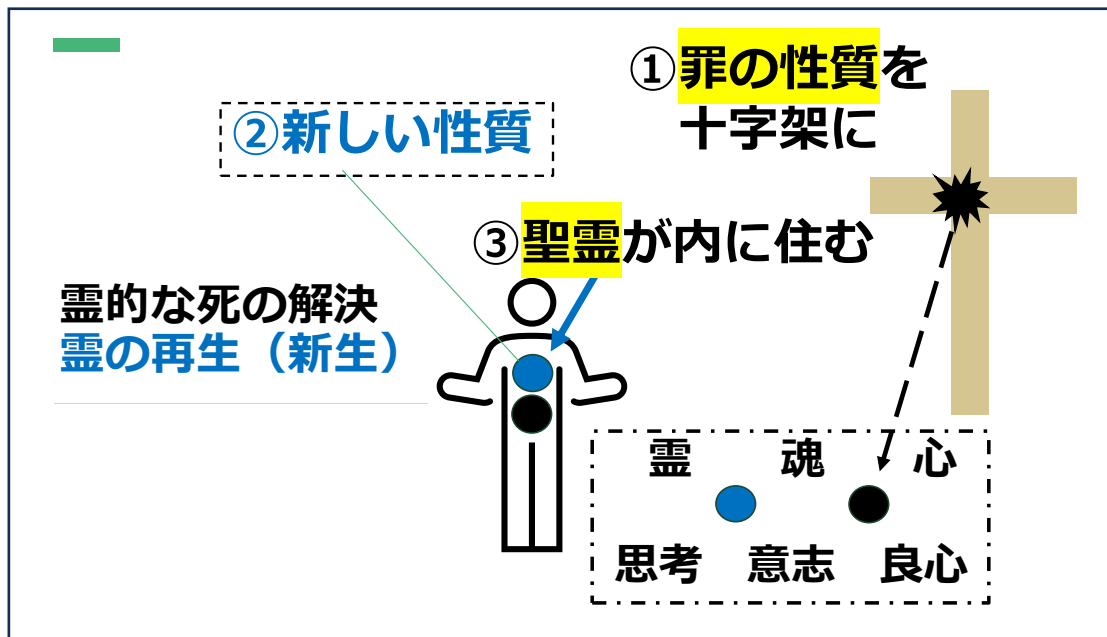
- 神から生まれた者、神の種・・・新しい霊（新しい性質）を指す。
- 罪を犯しません、罪を犯すことができない・・・新しい霊（新しい性質）は、罪を犯さず、犯すこともできない
- 信者は、その新しい性質に従うか、古い性質である罪の性質に従うか、選択することができる。その選択の繰り返しが、信仰生活である。罪の性質は、信者が肉体の死を迎えたときに、その内側から消去される。

(3) 聖霊が信者の内側に住んでくださり、神の命令を守り行う力を与えてくださる

ヨハネ 14:16～17a そしてわたしが父にお願いすると、父は**もう一人の助け主**をお与えくださり、その助け主がいつまでも、**あなたがたとともにいる**ようにしてくださいます。この方は真理の御霊です。

エペソ 3:16 どうか御父が、その栄光の豊かさにしたがって、内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。

- 内なる人・・・人の非物質的部分である【霊・魂・心・思考・意志・良心】
- 聖霊は、信者の内なる人に働いて信者を強めてくださる



2. 「肉体の死」に対する神の解決は、体の復活

その方法は、転嫁。元々、すべての人が死ぬようになったのは、アダムの罪を転嫁されたからであった。この転嫁という方法を、神は救いのために用いる。

第一ステップ、すべての人の罪を十字架上のキリストに転嫁する。

第二ステップ、キリストの義を信者に転嫁する。

この結果、信者は、将来定められた時に、キリストと同じように、もはや死ぬことのない、そして病や障害に苦しむことのない栄光の体を受けて復活する。

(1) すべての人の罪を十字架上のキリストに転嫁する

Ⅱ コリ 5:15a キリストはすべての人のために死なれました。

(2) キリストの義を信者に転嫁する

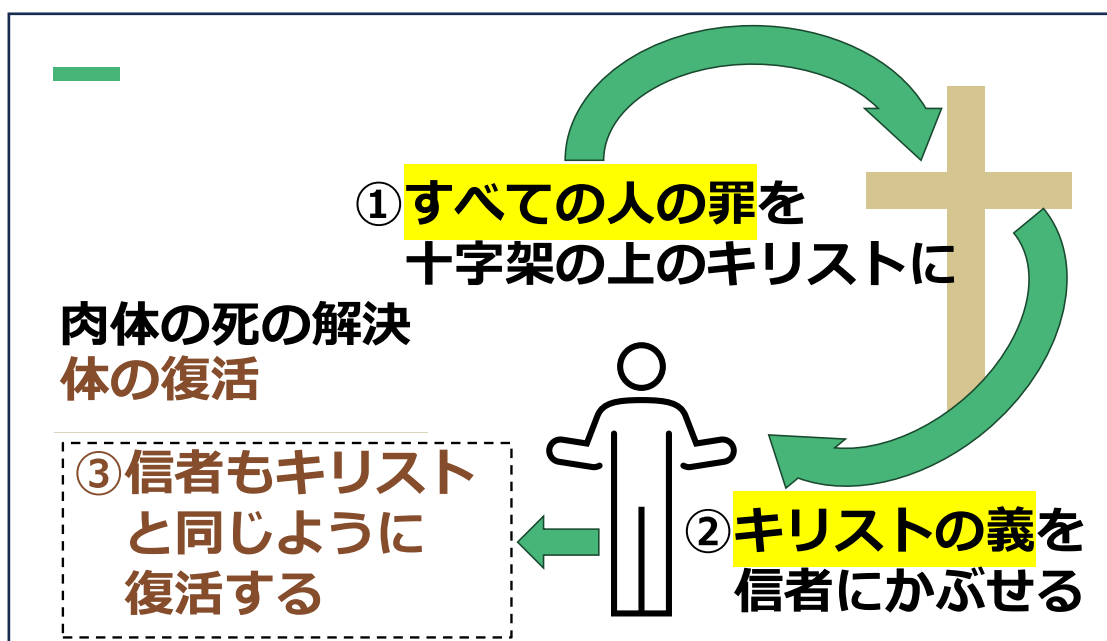
Ⅱ コリ 5:21 神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあって神の義となるためです。

ロマ 5:21 それは、罪が死によって支配したように、恵みもまた義によって支配して、私たちの主イエス・キリストにより永遠のいのちに導くためなのです。

(3) 将来、定められた時に、信者はキリストと同じように復活する

I コリ 15:21~23 死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のときにキリストに属している人たちです。

- 死が一人の人を通して来た、アダムにあってすべての人が死んでいる・・・アダムの罪がすべての人に転嫁されたことで、すべての人が肉体の死を受けることになった
- キリストにあってすべての人が生かされる・・・復活
- それぞれに順序・・・復活には順序がある
- その来臨のときにキリストに属している人たち・・・教会の信者たち。キリストの来臨のときとは空中再臨、キリストが教会の信者たちを迎えに来るとき。聖書預言によれば、大患難期の前に、いつでも起こり得る。今夜かもしれない。条件はひとつ、教会に属する異邦人信者の数が満ちることである（ロマ 11:25）。



3. 永遠の死に対する神の解決は、赦しと義認

永遠の死の原因は、個人的な罪である。私たちが生まれたときから重ねてきた個人的な罪は積み積み、神のさばきのときを待っている。

神の前に立つなら、誰も有罪宣告を免れない。その刑罰は、永遠の死である。

犯してしまった罪は消そうにも消せない。なかったことにすることもできない。

どんなに大きな富を差し出しても、いのちを買い戻すことはできない。

ここは、神の赦しを求めるしかない。

しかし、ただ罪を赦すことは、全能の神でもできない。神は、義なる神だからである。

そこで、神は、罪なきお方、聖いお方であるご自身が人となられて、十字架にかかり、私たちの身代わりとなって罪を背負ってくださるという、私たちが考えもしなかったことをしてくださった。

罪の代価は支払われたのである。聖書はこれを「贖い（あがない）」という。

このことを信じ、キリストを自分の身代わりであると認めるなら、神はその人に赦しを与えてくださり、さらに「義人」と認めてくださる。

その結果、信者は神のさばきの座の前に立つことを免れ、さばかれぬ。

ロマ 8:1 こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

- (1) 赦し・・・有罪宣告は赦しにより除かれる。赦しを受けるために必要なことは、イエスを自分の身代わりであると認めること、それを信じること、それだけである。

コロ 2:13b~14 (神は) 私たちのすべての背きを赦し、私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

Ⅰコリ 15:3~4 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、

- (2) 義認・・・さらに信者は、神によって「義人」とであると認められる。その義は、信者が自分で努力して到達しなければならないような義ではなく、転嫁によって受け取ったキリストの義である。自分の働きではなく、神の恵みにより、価なしで受け取った義である。この義に基づいて、信じた瞬間に、「義人」と認められる。

ロマ 3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

(3) 赦しと義認を受けた結果・・・神のさばきを受けない、神の怒りから救われる

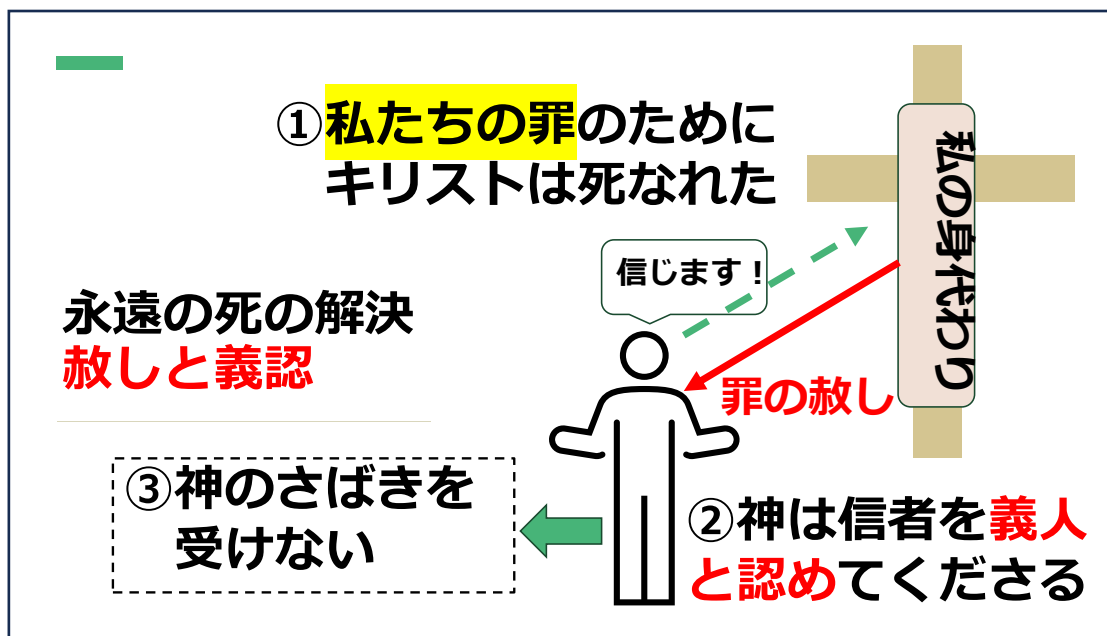
ロマ 5:6～9 実にキリストは、私たちが弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。

正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。

しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。

- 神の怒り・・・永遠の死である火の池の刑罰に至らせる、神のさばき
- キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われる・・・キリストの十字架の贖いを信じて、個人的な罪の赦しを受け、義人と認められた信者は、神のさばきそのものを受けない



4. まとめ：神による解決を受ける道は、十字架にかかってくださったイエス・キリストを救い主として信じる信仰のみ。この方以外に救い主はいない。

ガラ 3:22 しかし聖書は、すべてのものを罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人たちに与えられるためでした。

三つの死	その原因	解決の方法	解決の結果
霊的な死	罪の性質 (サタンの誘惑を受け入れたときに、人の中に入った。親から子へ遺伝的に継承)	✧ 罪の性質を十字架に付けて処罰 ⇒罪の性質による支配から解放 ✧ 新しい性質の付与 ✧ 聖霊の内住	霊の再生
肉体の死	アダムの罪 (転嫁された罪)	✧ すべての人の罪を十字架上のキリストに転嫁 ✧ 信じる者にキリストの義を転嫁	体の復活
永遠の死	個人的な罪	✧ 十字架上のキリストは私たちの罪の身代わり、罪の代価は払われた	赦しと義認 さばかれない